

のぼり 冷風扇 美化作業 講演会 様々

「生徒たちや先生方が伸び伸びと、何不自由なく教育活動に頑張れるように環境整備をすること、そのお手伝いですよ。校長先生!!」と話されたのは本校育友会(PTA)会長の山城進儀氏です。

題名は、氏が育友会会長に就いて新たに始めた取り組みです。学校が生徒たちの学習活動や部活動を支え伸ばし、その頑張りを地域に発信することを常に理解頂き、会長はその労を厭わず学校の発展に寄与されています。

「のぼり」は学校行事、各種大会の応援等に使用します。大型の「冷風扇」は生徒が快適に学習できるよう、自習スペースに設置されました。育友会の「美化作業」は昨年、創立以来初めて実施し今年も去る9月10日(日)に実施されました。育友会主催の「講演会」は興南高等学校校長、同校野球部監督の我喜屋優氏を招いて9月8日(金)に全校生徒、職員及び保護者の皆様を対象に実施されました。

学校が、教科学習のためだけの機関であるとしたら何と無味乾燥な場所になることでしょう。もし、それだけが目的なら、最近インターネットなどの通信機器を用いてでも目標の達成が可能になることもあり得ます。

学校の主な存在理由は、社会がどう変化しても「人と人との関わりを学ぶ」ことの上に成り立っています。特に、最近はその裏付けるように、採用や望む学生像(アドミッション・ポリシー)に「他者とのコミュニケーション能力を重要視する」という企業や学校が目立ってきていることもその現れではないでしょうか。

高校生は人間関係に戸惑う多感な頃ですが、適切な機会を設定しさえすれば驚くほどの成長を遂げてくれるのもこの時期の発達段階の特徴でもあります。幸いこの学校には活発な生徒会活動、HR活動、学校行事や部活動があり、生徒が他者との関わりを学ぶ場が沢山あります。

学ぶ場は、それを支えている人々との関わりの中で、その支えに応える教職員があり、さらにそれらの相互作用で伝統が脈々と受け継がれ、改革と発展を遂げるのだと思うのです。

